

# 新たなコンテナ苗とシカ防除対策4パターンの比較

－12ヶ月未満苗、特定苗木、無地拵、シカ柵、単木保護、忌避剤－

---

日時 : 令和5年3月1日(水) 10:30~12:00

場所 : 日光市ヲソ沢国有林 301つ1、つ2 林小班

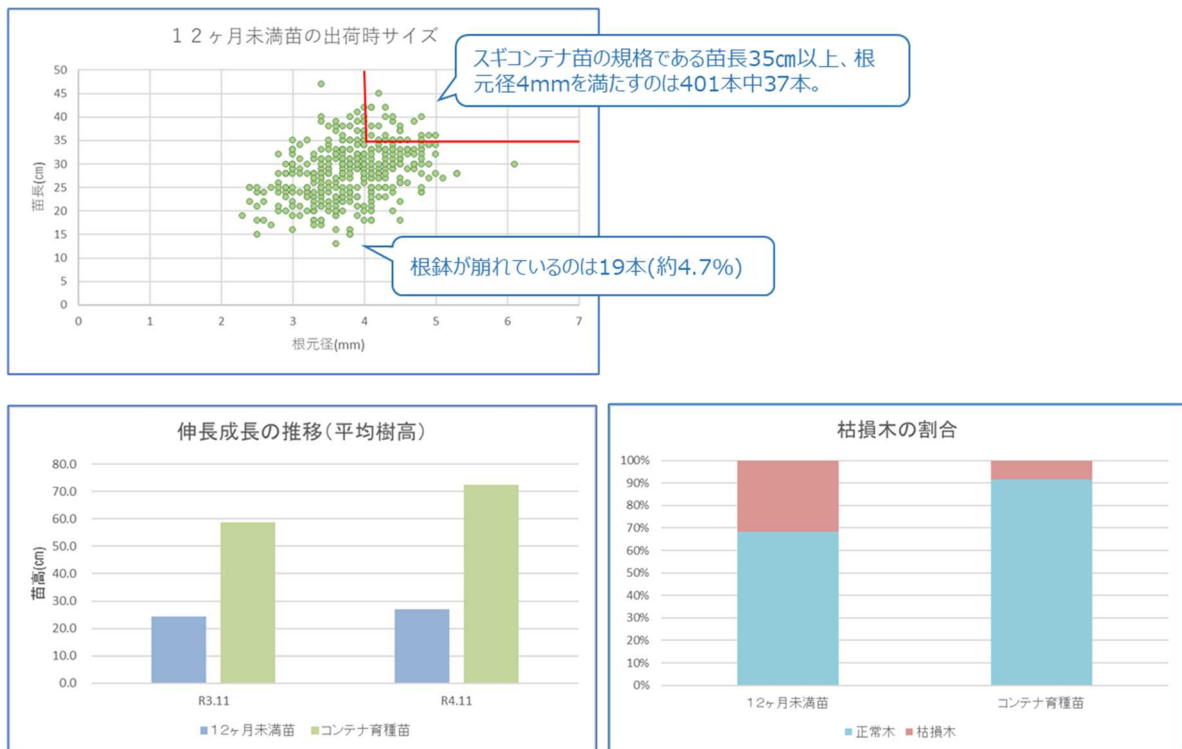
参加者 : 46人(県、市、林業事業体、苗木生産者、水源林整備事務所、森林管理署等)

---

「新しい林業」の実現に向け、早い成長と少ない花粉の両立を目指す「特定苗木」、育苗期間を短くし苗木の低コスト化を目指す「12ヶ月未満苗」という2つの新たなコンテナ苗と、効果的なシカ防除対策と低コスト化の両立を目指す「無地拵」「シカ柵」「単木保護」「忌避剤」という4パターンの手法について、植栽後2年を経過したスギ再造林地で現地検討会を開催しました。

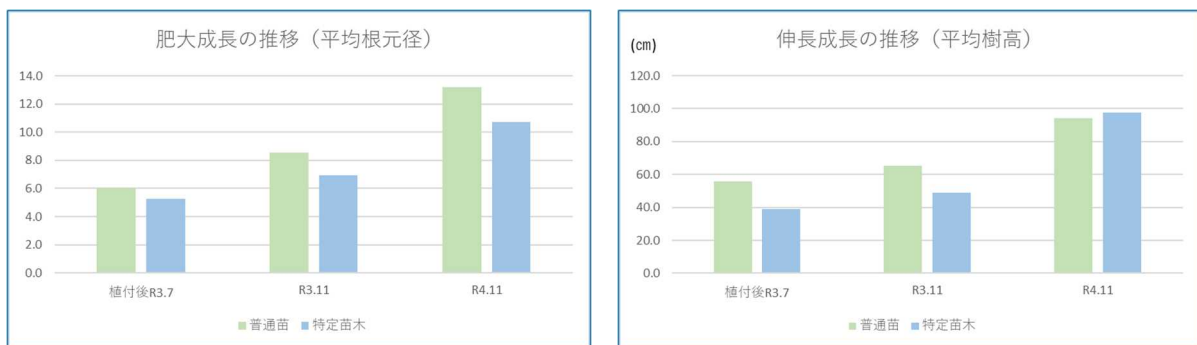
12ヶ月未満苗については、出荷本数401本のうち苗長35cm以上、根元径4mm以上の規格を満たす苗木は37本、根鉢が崩れている苗木は19本となっていました。今回は試験的な取組みのため出荷された401本全てを植栽し、うちプロットを設定した135本のデータを基に検証しました。植栽後2年を経過した結果では、通常の2年生のコンテナ苗より12ヶ月未満苗の方が、枯損率が高く伸長成長も低い結果となりましたが、規格を満たしていた12ヶ月未満苗は、通常の2年生のコンテナ苗と同様の成長を示していました。これらの調査結果から、規格に達した苗から順次出荷するこ

と、育苗技術の向上や生産設備の整備、苗木価格の低廉化等について意見交換が行われました。参加者からは、「普通苗（2年生）より小さいので誤伐しそう。特定苗木の12ヶ月未満苗なら規格を満たす苗木が増えるのでは」「今後の低コスト林業を進める上で、検討を進める必要があると感じた」等の意見が出されました。

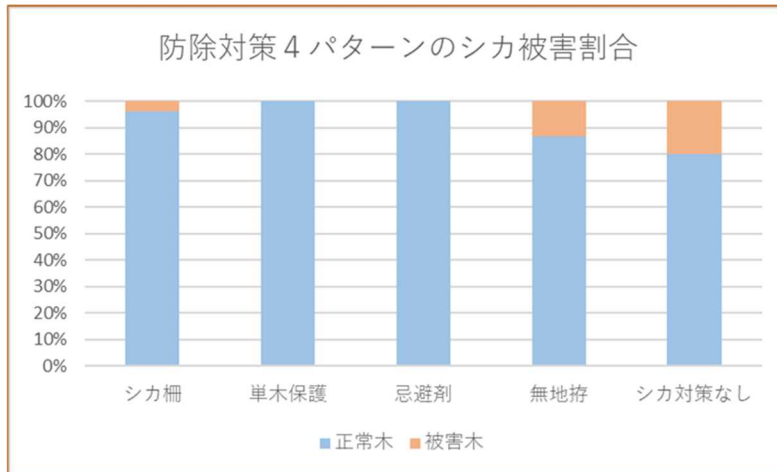


12ヶ月未満苗の生育状況（2年生）

『成長が従来の 1.5 倍、花粉が従来の半分以下』という条件で選抜された特定苗木については、2 年生の時点で肥大成長は通常のコンテナ苗と同様、約 1.5 倍の成長を示していましたが、伸長成長は約 2 倍の成長を示していました。これらの調査結果から今後の経過観察も含めた検証等について意見交換が行われました。参加者からは、「今後植栽するのであれば、特定苗木の少花粉というのも期待したい」「現時点では普通苗に比べて伸長が良い印象だが、箇所によってバラつきがあるのでもう少し経過を見たい」等の意見が出されました。



『無地拵、シカ柵 (ネット)、単木保護 (ネット)、忌避剤』のシカ防除対策 4 パターンの比較については、無地拵とシカ対策なし (比較対象地) では、シカ被害率が高く、単木保護と忌避剤は効果が持続している状況となっています。これらの調査結果から、忌避剤が通常よりも丁寧に散布していること、シカ柵が前年度の大雨で一部が崩壊したこと等について意見交換が行われました。参加者からは、「伐採前の雑灌木の量等も影響すると思うので、他の条件で実施した現地も見てみたい」「伐採や集材を行う作業員の配慮で状況が変わるのではないか」等の意見が出されました。



### センサーカメラによるシカ撮影頭数 (R3.12~R4.3)

カメラ番号	撮影頭数
36	5
37	6
38	5
51	86
52	98
53	258
54	36
55	194



無地拵調査区の状況 (植栽前)

今回、試験的に行った「特定苗木」「12ヶ月未満苗」「無地拵」については、2年生時点での評価であるため、今後5~6年生時点での再評価や、その後の生育状況についてもモニタリングする計画です。また、現地検討会では、栃木県と栃木県山林種苗緑化樹協同組合が共同で取り組んでいる大苗や早世樹についての話題提供もあったことから、今後も苗木の生産や育苗については、関係機関や苗木生産者との連携を図りながら新たな取組みにチャレンジしたいと考えています。



スギコンテナ大苗の状況